

2024 年 8 月 7 日
ライオン株式会社

2024 年度 第 2 四半期（中間期）決算説明会
アナリスト質疑応答（要旨）

【事業利益について】

Q：1-6 月は連結事業利益が年初公表から 15 億円上振れたが、国内外に分けるとどうか？

A：上振れた 15 億円の内訳は、約 3 分の 1 が海外、約 3 分の 2 が国内です。特に国内については競争費用の効率化や、オーラルケアや目薬など当社が得意とする分野にフォーカスすることで、収益性改善の成果が出始めていると捉えています。今後も得意分野に集中することで、国内の収益性を高めてまいります。

Q：セグメント構成変化等の影響は、1-3 月では+ 8 億円だったにもかかわらず 1-6 月では△6 億円と減益要因に転じているが？

A：1-6 月の△6 億円の内訳は、国内を中心とした価格転嫁による増益効果が+ 17 億円、賃上げ等による製造原価の増加が△6 億円、セグメント構成変化等が△17 億円となっております。

（こちらには昨年機能性表示食品事業を譲渡した影響も含まれています）

これらの数字には様々な要素が含まれているため、状況をより正しくお伝えできるよう、今後、表現方法をアップデートしていきたいと考えています。

Q：通期の事業利益増減要因見直しについて、詳細を説明してほしい。

A：事業利益の合計額は年初から変わっておりませんが、1-6 月の進捗等を踏まえ、内容を見直しました。見直した内容としては、売上増減・構成変化等の影響は、価格転嫁等が順調に進んでいることを受けて、年初想定よりも増益幅が大きくなると見えています。一方で、利益マイナス側として、1-6 月は想定以上に円安が進んだこともあり、その影響として、7-12 月の原材料価格の上昇影響が年初の想定を上回ると見えています。

【一般用消費財事業の状況について】

Q：1-3 月の一般用消費財事業のトップラインは弱い印象だったが、4-6 月で回復したのか？

A：新製品「OCH-TUNE」の貢献でオーラルケア分野が伸長するなど、概ね回復傾向となっており、事業譲渡の影響を除いた実質では、前年同期を若干上回っています。

Q：新製品「OCH-TUNE」の状況と、今後のオーラルケア分野全体の考え方は？

A：「OCH-TUNE」は計画には届いていませんが、従来の症状訴求とは異なる新しい提案であり、浸透するにはある程度の時間が掛かるものと認識しています。「OCH-TUNE」を育成しながら、既存ブランドも成長させることで、オーラルケア分野の盤石化を図ってまいります。

Q：ファブリックケア分野の状況と、今後の戦い方は？

A：ファブリックケア分野のトップラインが厳しかった大きな要因は、2023年に発売した柔軟剤「ソフラン エアリス」の反動によるものです。今後、ファブリックケア分野においては、広告宣伝を多くかけることでマスを獲得するようなビジネスから、当社が強みを持つカテゴリに絞り込み、収益性を重視するビジネスに転換してまいります。なお、生産体制については、現在、集約や効率化の検討を進めています。

【ポートフォリオ改革について】

Q：ポートフォリオ改革を進める中で、中長期的なリソース配分や組織体制に関する考え方は？

A：例えば、研究開発については、ライオングループとして国内、海外の研究所をどのように位置付け、保有する技術をどのようにアロケーションしていくのかという視点に立って、内部のリソースを組み替えるなど、グループ全体での成長を加速させるような体制を検討しています。

以上

【注意事項】

本資料で記述している内容は、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性、完全性を保証するものでなく、今後、予告なく変更される可能性があります。

また、将来予測や業績見通しなどに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。